

第3回 苫小牧市食育推進協議会

日時 平成29年5月24日(水)
18時30分～20時00分

場所 市役所本庁舎9階 議会大会議室

次第

- 1 開会
- 2 議事

(1) 苫小牧市食育推進計画(素案)の修正・変更について【資料1】

【事務局より変更点の説明】

事務局	<p>事前配布致しました資料1・資料2、また本日前回配布致しました計画のVer.2というものもお持ちでしたら一緒に照らし合わせながらご確認頂ければと思います。では私の方は、資料のページ数に沿ってご説明させて頂きたいと思います。</p> <p>まず、全体になるのですけれども、前回の計画の30ページ以降につきまして基本目標1から3ごとに、基本目標1に対する目標、基本目標2に対する目標という形で掲載しておりましたが、全体の目標値を46ページで一括掲載という形で構成変更をしております。また、計画1ページめくって頂ければ目次がございますが、「8.食育推進の施策と目標値」という表記がございますが、こちらは「8.食育推進の取組み」と表記変更しております。この構成と表記変更の理由につきましては、市の各施策の下に目標値を掲載しておりましたが、各事業は食育へ大きく関与はしておりますけれども、食育計画の為に実施している事業だけではないということで、基本目標1から3の全体の事業を複合的に行いながら目標値達成に向け取り組んでいければ良いのではないかと、庁内会議も含めて検討し判断しまして、46ページへの一括掲載、また施策という表現を取組みと変更させて頂いております。</p> <p>続きましてページの3ページ。こちらは追加になりますが、下にコラムがございますけれども、こちらの方には来月図書館の方で食育月間フェアということで取組をして頂けるということになっておりますので、そちらの写真を撮らせて頂き挿入する予定となっております。</p> <p>続きまして6ページは修正になります。全て修正・追加の部分は下線が入っております。6ページのもやしの生産量道内3位、年間約5千トンというものの記載でしたけれども、最新のデータを確認致しまして、もやしの方は生産量道内トップクラス、年間約7000トンという表記へ変更しております。</p> <p>続きましてページは飛びますけれども、17ページ。こちらは修正になりますが、左上、成人・単身世帯以外の世帯の中で、「ほとんど毎日」が50%という表現で今までの計画はなっておりましたが、Ver.3の方では「ほとんど毎日」、「週に4～5回」を合わせると55.7%へと修正しております。これにつきましては、46ページの目標指標の中で共食に対する現状値を今一度確認しましたところ国の第3次計画の現状値を参考にしたところ、週4回から5回を合わせた数字を含めても良いのではないかとということでこちらを変更してお</p>
-----	---

ります。

続きまして 28 ページ。重点項目のラの部分です。「もったいないライフでエコライフ」という表現でしたけども、前回の協議会で変更予定と説明しておりましたが、苫小牧ライフの意味合いについて頭文字を揃えた方が良いというふうに考えまして、「ライフスタイルに合わせたエコライフ」という表現へ修正しております。

続きまして 31 ページ、また 36・39 ページも同じ意味合いにはなりますが、ページの左上 (2) 具体的施策という表現でありましたけども、今回の Ver.3 では、(2) 取組み例へと修正しております。また、同じく 31 ページ、追加になりますが、その下《市の取組み》という表記を追加しております。

続いて、各市の事業についてですが、同じく 31 ページNo.6、取組名が「離乳食・食事指導」となっておりましたが、「乳幼児健康診査」へ修正。また、No.12 の就学児健康診断中の取組内容の中で、「歯科検診」という表現でしたが、こちらを「健康診断」へ修正。

32 ページ、No.13 の児童生徒健康診断の取組内容、こちらも「歯科検診」でしたが Ver.3 の方では「健康診断」へ修正しております。また同じく 32 ページのNo.16、取組名ですけども、「学習活動推進事業」という表現でしたが、Ver.3 では「総合的な学習活動推進事業」へと修正しております。続いて 33 ページ、前回の計画では 38 ページ掲載されていたものになるのですが、基本目標 3 で取組名No.48 の「アスリートフードマイスター要請」というものがございましたが、こちらにつきましては、事業目的が健康づくりをサポートする事業ということを担当課に確認しましたので、基本目標 3 から 1 へまず変更していると共に、取組名称正しく、No.31「アスリートフードマイスター要請支援事業」というかたちで修正しております。また、同じ 33 ページ追加になりますが、《各団体の取組み》としまして、栄養士・市民を対象とした活動として写真と共に北海道栄養士会苫小牧支部の活動内容を紹介。また同じく 34 ページ、こちらも追加になりますが、《各団体の取組み》食品に起因する食中毒を防止するための事業として、苫小牧地方食品衛生協会の紹介。さらにその下、食中毒予防のコラムを追加したというかたちになっております。

続きまして 36 ページ、No.40・42 の事業内容は変わりませんが、市の機構改革により課名が変更になりました。減量対策課からゼロゴミ推進課というところで課が変更となっております。同じく 36 ページ、前回の計画にはNo.42 にありました全国美味しい食べ切りネットワーク協議会の活用というものを掲載しておりましたが、担当課におきましてこの協議会への加入予定がないということになりましたので、今回の計画ではこの事業は削除しております。続きまして 37 ページは追加になりますが、各団体の取組としまして、保育園での食育（苫小牧市法人保育園協議会）の紹介、また幼稚園・認定こども園での食育として、写真と共に北海道私立幼稚園協会苫小牧・日高支部の紹介をしております。

続きまして 39 ページ、こちらは修正になります。No.45 になります。担当課の方より、具体的な取組内容がありましたので文面を一部変更させて頂きまして、「五穀米でおにぎりを作ったり、そば・大豆を石臼で引く体験や、そばがき作り、また、昔ながらの保存方法である燻製作りの体験などを通じて食生活の伝導を行っています。」という形で文面を

修正しております。40 ページにつきましては追加になります。No.56 農業水産課の事業「地域資源活性化推進事業」、また同じく 57 番、農業水産課「産直マップ作成」を追加しております。また、前回 Ver.2 の方の 38 ページにありました子ども育成課のあおぞら広場という事業につきましては、子育てのリフレッシュを目的とした事業ということでしたので、今回の計画では削除となっております。同じく 40 ページ、追加としまして、《各団体の取組み》の中で、地産地消学食プロジェクトとして学校法人駒澤大学苫小牧駒澤大学の紹介。東胆振地産地食フェア in とまこまいとして写真と共に、苫小牧商工会議所の紹介をしております。41 ページ、修正になりますが、No.61 の小中学校食育計画の取組内容の文面の中で、「食育計画」という表記でしたけども、今回の計画の中では「食に関する指導の全体計画」へ修正しております。また、追加としましては、同ページの中で、地域に根ざした食育の推進として、苫小牧消費者協会の活動を紹介しております。45 ページになります。修正と追加があります。一部申し訳ございません、訂正となりますが、(3) の①食育推進協議会の中の「食」という字がかけております。申し訳ございません、お手元の資料の訂正をお願い致します。そして、その①食育推進協議会に、認定こども園という言葉の表記を追加しております。

続きまして次のページ 46 ページになります。追加になりますが、指標を含めて目標値という表現の下に（平成 33 年度評価）という言葉を追加しております。また、修正になりますが、指標の 1 つ目、朝食を毎日食べる人の割合、目標値を 100%としておりましたが、当初これは国・道の目標値と合わせて作っておりましたが、事務局・庁内会議で検討した結果、100%に近づけるという表記へ修正しております。また、2 つ目の指標、バランスのとれた食生活を意識する人の割合、当初目標値は 80%以上としておりましたが、この現状値自体が 79.2%であり、他市に比べて苫小牧は高い結果となっていることから、当初の目標値 80%よりも高め 85%以上と設定を修正しております。また、指標の中の朝食や夕食を毎日家族と一緒に食べる人の割合の現状値ですけども、先ほど一部ご紹介させて頂きましたが、現状値の方、朝食が 50%、夕食が 71.2%としておりましたが、朝食や夕食をほぼ家族と一緒に食べる人の割合（週 4 日以上）の方を含めましたので、朝食 55.7%、夕食 81.7%と修正しております。さらに指標の食品ロスを意識して実践する人の割合、当初の目標値は 80%以上としておりましたが、国の現状値が 67.4%に対しまして、苫小牧市では 76.1%と国より高い結果でありましたので、国の目標値 80%よりも高め、85%以上というかたちを設定・修正しております。また、下線漏れですが、それぞれの現状値の調査項目をその下に表記しております。

続きまして 47 ページ、資料になりますが、前回委員の皆さん方からのご意見がありましたので、資料編 3 として食事バランスガイドを追加しております。

最後になりますけども、62 ページ、各委員の皆様のご紹介をさせて頂いておりますが、苫小牧市法人保育園協会の区分が「乳幼児教育」という表記になっておりましたが、保育を目的とした機関・協議会である為、区分を「乳幼児保育」という表現へ変更させて頂いております。尚、各団体の取組についてのご紹介につきましては、前回の会議の時にご発言頂いた内容であったり、調査に書いて頂いた内容を基に事務局で精査して文面をつくら

	せて頂いたというかたちになっております。私の方からの説明は以上です。
--	------------------------------------

【質疑応答】

委員	<p>正直な話、ここに来て始めてこうやって見た状態で、見る暇も無くて申し訳ありません。なかなか私もここに3回は出席させて頂いているのですが、あまり難し過ぎて戸惑っているのが現実でございます。最初第一回目の時もお話したと思うのですが、今の食の状況というのは、私が見るには食育を、例えば、46ページ、「食にふれあい、苫小牧の味を伝える」の地元の食材を食べることを意識している人の割合43.8%、それから食育に関心がある人の割合59.9%というのがあるのですけれども、本当にそうなのかなという不信を抱くくらい、ということは、子育て世代ではやっぱり輸入食品だとかそういうものが主体となってスーパーでは買われる方が多いと思うのですが、たまたま魚に関しては、苫小牧の場合は、今時期はカレイ網が入っていますんで、魚が沢山獲れて値段が安い状況ではスーパーでも売られていると思うのですが、現実には買い物されるのはスーパーが主体になると思うのですが、あの売り場を見ますと、買って作る方の割合がこんなに沢山本当にあるのかなという感じがあるものですから、私がここに座っていること自体ちょっと恥ずかしいというのか申し訳ないなという状態でここに座っているのが現実でございますね。</p> <p>ですから、この数字が本当にこんなに沢山の人が意識しているのかなというのが今日の感想でございます。あまり他の事は難しく先の方は読んでいないんですけども、申し訳ありません。自分の家庭で見ますと、孫も4人もいまして、今小学生の孫を見ているのですが、朝、食事を食べさせて出掛けようと思うのだけでも食べないというのが現実にあるものですから、本当にどこまでどう出来るのか、ここに座っているのが本当に恥ずかしい次第です。とりあえずそういう感想で申し訳ありません。</p>
委員長	山本委員ありがとうございます。これは、アンケート調査の結果ということでございますが、いま、バランスのとれた食生活を意識するところの、全体の割合が高いという・・・？
委員	それもそうですけど、%が非常に高いように感じます。
委員長	現実の生活から考えると多いように感じられる？
委員	感じましたので、すいません。
委員長	貴重な意見かと思えます。ありがとうございます。それでは石井委員の方からはいかがでしょうか？
委員	特にありません。
委員長	そうですか。ありがとうございます。また気が付かれたらお願い致します。では山崎委員お願いします。
委員	私も少しアンケートの値、数値の目標の現状のところ疑問がありまして。46ページなのですが、アンケート調査では「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をする市民の割合のところの項目なのですが、50代以降が39.1%となっているんですが、実際のアンケートでは、50代以降だけではなくて全部の世代にアンケートをとってはいるのですが、

	<p>目標値が現状値以上となっていて、そこに書いているのは 50 歳代以降の値しか書いていないんですが、若い人の目標というか現状は載せなくて大丈夫なのかなというのと、意外にもさっきも言われていたんですが、若い人の方が挨拶をしているという値が大きくて本当なのかなというのが少し疑問に思いました。</p> <p>それと、ちょっと変わるのですが、実際に行われた各団体の取組みのところで、写真が載っているのと載っていないのがあって、できるだけ細かく。33 ページの所の栄養士の市民の方を対象にした活動というのはしっかりと載っていて、活動の様子がわかるんですけど、41 ページの消費者協会の方のところにはまったく載ってなくて、どういう活動をしているのかっていうのを、私としてはあんまりスッと入ってこない、パッと見た感じでは入ってこないっていうのがあって、その活動の取組が見えるか見えないかっていうところにちょっと差が出てしまうのではないかと感じました。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。取り組みの写真があれば是非入れてほしいという、ビジュアルに訴えるというところなのかなと思います。数値の山本委員と同じ様な印象を持たれているということで。ありがとうございます。それでは副委員長、市町委員お願い致します。</p>
副委員長	<p>個別じゃなくて、食育推進計画全体についてなんですけど、まずこの資料、素晴らしい、良く出来ていますね。実際にどのように今後活かしていくかがやはりこれからの大きな課題だと思います。実際、食を通して健康な身体をつくっていくということなのでしょうか？それは医療費の削減に繋がると思うのですが、今後これを進めていく上で、全体をいっぺんにやることは出来ないんで、例えばテーマを絞って、子どもにもっていくのか、若者にもっていくのか、それとも高齢者にもっていくのかということにターゲットを絞って、これからの展開を決めていった方が良いのではないかと思います。いろいろ網羅していろいろなことが出てきて、これが一応こういうことが終わりましたというのはこんな資料もったいないんだし、何度も言うようにこれからの展開の仕方としてどこに向かってどうやっていくかまず決めて、実現に向けてやっていった方がいいのではないかと思います。どっちにしても、素晴らしい資料ができていますので、もったいないなと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。今のご指摘の点でございますが、1 回目 2 回目のところで、丁度 42 ページの表で、40 歳代くらいのところの取組が少ないのではないかなというような話が出まして、今までの経緯の中で、この年齢にもう少し健康に気づかって頂くということも皆様の発言からでておりましたことをご報告申し上げたいと思います。</p>
副委員長	<p>個人的にといたらおかしいですが、私たち高齢が増える中で、非常に独居老人が増えてきましたね。特に男の独居老人が非常に負担でありまして、私も町内会長をやっているのわかるんですけど、不幸にして大体奥さんの方が長生きですが逆の場合もある。ご主人が先に死んだ場合奥さんが非常に長生きしている。奥さんが先に死んだ方というのは、男は大抵長生きしません。見たらやはり食事、好きなものだけ食べる、買ってくる、出来たものを食べる。こういったところを、医療費の削減といたらまた変ですけど、少し目を向けても良いかなという個人的な考えでした。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。それでは山内委員いかがでございますか？</p>

委員	<p>私、苫小牧消費者協会の方から来ていますので、先ほど苫小牧消費者協会で写真が載っていないことを言われたのですが、調理実習とかの写真を載せればいいものなのか、それとも私たち苫小牧消費者協会はですね、以前からお米にはすごいいろんな農薬が沢山使うということで、今は減農薬ということで取り組んで頂いて、特別栽培米というお米の取組をしているんです。それをこのところ 20 年くらい前から取り組んでまして、消費者協会の会員のみで販売出来るという、JA 厚真さんの方で取り扱って頂いて、それは苫小牧消費者協会だけに、協会の会員様だけにという形の取組なのです。そういった活動がいいのか、それとも活動を載せるべきなのか？それから味噌も厚真の JA の方と協賛しまして、手作り味噌を作ったりですとか、そういった取組等を載せるべきなのかちょっと迷ってはいます。</p> <p>それから調理実習という形で行っているのですが、苫小牧産の魚を使おうということで、苫小牧産の魚、まつかわとかホッキ、鮭なんかを使った調理実習なんかを行っているんです。毎年。それからここには牛乳教室となっていたのですが、これは北海道の牛乳を使おうということの牛乳料理教室、それからお米も北海道産のお米、厚真産の特別栽培米を使ったお米の料理教室をやるということで毎年行っているのですが、その写真を必要とするなら、次回までに載せていただくよう手配は致します。</p> <p>それから個人的といいますか、これを見ていまして思ったことなのですが、山本さんもおっしゃっていましたが 23 ページの地産地消に対する意識というのが、とっても低いような気がするんです。でもここには、女性でかなりの数値が出ているのですが、こんなに買われているのだろうかという、とっても疑問に思いながら見ておりました。地産地消それから旬の物を食べるという本来の食の持っているべきものがどんどん失われているような気がするのです。</p>
委員長	<p>どうもアンケートの数値に比べて、現実がもうちょっと違うのではないかというようなことも、そういったものをどこかに入れたほうがいいのかという。</p>
副委員長	<p>地産地消の地産とは北海道ということですか？苫小牧や苫小牧近郊だけでなく。それでしたら私、店を経営しておりますけど、青果については季節で変わりますよね。それから例えばこれからの時期だと北海道から出来るものもありますし。逆に外国の物といわゆる国内のものと分けたときに考えたら、一時は随分外国のものが売れましたけど、今は逆ですよね。確かに中国産少し安くなったりしますが、価格差はありますけど、やはり国内のものや、今でしたら道内のものが売れる傾向にあるので、地産地消はやはり皆さん必ず産地を見ているよね。意識は決して低くはないということを思っています。</p>
委員長	<p>実際に 23 ページの資料ですと、「意識している」と「少し意識している」を合わせると 43.8%とまあ半分弱ですが、全部の年代を合わせたところですよね？合計ですよね？10代 20代も入っていますので、年代によっても違って平均としてこうなるといふ数値かと思えます。</p>
副委員長	<p>若い人は、コンビニに行ってカット野菜を買っているが、あれは国内以外のものも入っていますから。</p>

委員長	<p>そこの低いところにも懸念があるという、そういうお話も頂きました。41 ページについては、ここの文脈に合った写真を使うのか、それとも違う取組のお写真と違う取組をここの文章に入れるのか、そのあたりは是非ご相談を頂きたいと思います。</p> <p>それでは、近江委員の方からお願い致します。</p>
委員	<p>デザインなのですが、字が多いと結構辛いものがあるので。これは印刷会社に出されるのでしょうか？もうちょっと枠を吹き出しみたいな形にするとか、そういうのでインパクトあるような感じで出来ればいいのかなと思いました。取り組み例とかは吹き出しみたいにする、あたりが砕けて親しみやすくなるのかなと。読む方も親しみやすく見られた方が食育なのでいいのかなとちょっと思いました。</p> <p>あとは、先ほど山崎委員がおっしゃられたように、写真をもう少しいろいろ、地産地消というところもありますし、せっかく苦小牧はホッキとかもやしとかもあるので、38 ページとか結構隙間があるので、そういうところは食材の写真とかを載せられる、イラストで何かとまチョップ的なのがあればそういうのもよろしいですし、そういうのを載せたら親しみやすく皆さんに見てもらえる計画になるのかなと。やっぱり見て頂かないと進んではいけないのかなというのがあるので、そういう風にされたらより良いのかなという風に思いました。</p> <p>あとは、これは5年計画なのですが、5年目にはやっぱり同じような項目で調査されて評価されて、また2次・3次というように進んでいけばとても良いかなという風に思いました。</p>
委員長	<p>ちょっと違う角度から素晴らしいご意見も出して頂きました。皆様いかがでしょうか？お写真をもう少し増やすと、食材のイラストや写真ということについて三浦委員はそのあたりいかがでしょうか？そういったご提案は。</p>
委員	<p>そこらへんは素人なので、別の観点でよろしいでしょうか？</p> <p>非常に食育というのは、小学校・中学校とか義務の中でもとても大切なことで、取組もしているのです。せっかくこれだけの膨大な資料とかいろんな長い時間かけている取組なので、できたら市民に浸透していければいいなと。それぞれ年代別だとかいろんなことも考えているので、是非基本目標1・2・3は素晴らしいなと思うのです。食を学び、健康なからだをつくるだとか、楽しさを知るだとか。そういったものがこの取組と共に定着していければいいかなと。</p> <p>私は樽前小学校で校長をしているのですが、この農業水産のところに書いてあるように、樽前交流センターという週に1回センターで地元の農家の方々が作ったものを売っていて、すぐく沢山の方が買いに来られると。木曜日はまた別な、学校のすぐ近くなのですが、別の人が作っている野菜を売りに来るといことで、地産地消に対する意識が非常に高いかなと思います。交流センターの周りにはアスパラ園があって非常に美味しいアスパラが。この前うちのPTAで廃品回収をした後焼肉をしたんですけども、そこで地元のアスパラをいっぱい買って来て、非常に美味しかったという風に思います。今、私たちがそうですし、皆さんもそうだと思うんですけど、健康志向であるとか、スローフードというゆっくりいろんなものというような、関心が高いのはあるんですけども、先</p>

	<p>ほど言われたように経済的な事情でいいものはいいんだけど、なかなか買えなくて、どうしても安いもの、外国産のものという葛藤もあると思う。でも、そういう提案としてこういう風ないいもの、こういった形っていうのは非常にいいかなと。取組みの例として示す取組で、非常にいいなと思って。自分も見て、こういうのがあるんだと参考になることが多いので、是非市民の方々にそういった機会を沢山もって頂いて、少しでも関心が高まっていけばいいのかなという風に思います。</p> <p>あと、まったく別のことになってしまうのですが、私、教育が専門なものでちょっと気になるんですけど、取組み例とかの取組みってありますよね。これ普通、文章の中で使う場合は「取組」という名詞的な扱いか、あと「取り組み」というのになる。調べると、「取組み」は許容ということで、意味的に違うみたい。許容ではあるんだけど、使うとしたら文章の中で「取り組み」というのを使うかあるいは「取組」を使う。私たちも「～のとりくみ」というのを使う時に「取組」という場合と「取り組み」を使い分けしているんですけど、あえて「取組み」と書かれたのは何か意図があるのかということだけ最後にお聞きしたいなと思っていました。</p>
委員長	そこは今伺ってみましょうか。お願いします。
事務局	きちんとその辺は精査して修正したいと思いますので。
委員長	取組む時は、「取り組む」ということも含めてだそうですね。ありがとうございます。樽前の実際の活動も入っていたと思いますが、そういったものもお写真などのご要望はございますか？
委員	私たち、学校で椎茸を栽培していて、交流センターで野菜を売るときに一緒に売らせて頂いたりしていたんですけども、その時に農水課の方達が来られていろいろと活動しているので、もしそういった紹介が出来るのであればいいのかなと。多分、広報などに載っていると思うんですけど、知っている方は毎年楽しみにしていらして、13時から売りますけれど、11時半から12時くらいから並んでいるとかそういう状態で、私も一回覗きに行ってみようかなと思って行ったら13時05分には売り切れていたというのがあったので、関心も高いのかなと。もしそういう実際に写真だとかがあれば、そういう様子などがあればそれはそれで良いのかなというふうに思います。
委員長	今の戻ってしまいますが、「取組み」。例えば40ページの59番のところも、「食育月間の取組み」と健康支援課の取組みで、上も「取組み名」というところで、全部統一されているようですが、後でその点は検証して頂くということでお願いします。 それでは、順番で小野里委員をお願いします。
委員	21ページを開いて頂いて。仕事柄、私、こども園におります。こども園ではこのように温かい給食が、主菜・副菜・デザートもついてこの様な形で並ぶのですけれども、苫小牧の市立保育園並びに幼稚園なんかもそうですけども、ご飯は持参なのです。各家庭からお弁当箱に入れて、残念ながら温かい状態ではなく、持ってきて食べるのですけれども。そのご飯がとても今気になっているのが、ほとんどの子はふりかけがかかっているのです。せっかく美味しいおかずがあってもふりかけの力でご飯だけかき込むという。 それはどうなんだろうかということで、うちのこども園で管理栄養士さんと相談させて

	<p>頂いて、委譲を受けて今、山手保育園の園児がうちの園には来ているんですけども、ずっとそこではそうだったようで、お母さん方にもそういった話をしたら、「何でふりかけがダメなんだ」というようなかたちで、管理栄養士さんの方から今度の給食の献立の中でこういう文章を用意して頂きました。「口内調味について：おかずを食べ主食（ご飯やパン）を食べて、口の中で味を調整して食べることを口内調味といいます。持参するご飯やパンにはふりかけやジャムなどはつけずに、おかずの味で食べる習慣を身に付けましょう。」ということで、今はふりかけってキャラクターのかわいいものがあるって、それを持ってきてかけたいという気持ちや、やはりふりかけというところに子ども達のいろいろな期待感が異常に高まっていて、その部分がすごくこのままでいいのかなというところを今現場で感じているものですから、どこかで今みたいなこういう部分も現場から出た声として入って頂ければなと思います。ちなみにパンも各ご家庭から持ってくるんですけども、初めの頃はほとんどがジャムサンドだとかおかずに合わないような調理パンが並んでいて、それも味のないパンでいきましょうということ呼びかけたら、そこは園の方針ですか？とかいろいろ意見を言われたんですけども、園の方針というより、子ども達の為ですということをお願いしたら、次の時から全員が調理パン無くなりました。やはりこちらの訴えというか、きちっとしたことを言えばお母さん達はわかって頂ける、幼児期に相応しい食生活を働きかけていくことを大切にしたいなと思っているので、この食育推進計画というのも是非手にとってお母さん方が目にして頂けるようなものになってほしいということを願っております。</p>
委員長	<p>ご飯のふりかけのこれは、今からこういった内容を盛り込むということは可能でしょうか？</p>
事務局	<p>栄養士さんと相談しながら検討したいと思います。</p>
委員長	<p>大人のふりかけというものもあって、大人もふりかけをかけて食べる習慣を持っている方も多いのかも知れませんね。</p>
副委員長	<p>その親の方って普段からあれですかね？そういうジャムパンとか食べているんですか？自分もそうだから子どももと思うから、ジャムパンでいいと思っているのかな？どうなのですかね？</p>
委員	<p>家の孫を見ると、自分の好きなものを食べさせているという感じですよ。</p>
委員長	<p>一番若い山崎委員は、ふりかけをかけてご飯を食べる習慣はありますか？</p>
委員	<p>若い人の一人暮らしとかだと、やっぱり手軽さとか安いものとか、あまりバランスとかは第一優先ではないということはずごく感じるの、そこは考えなくてはいけないとわかっていながらもそういうのは優先できないという現状があると思います。</p>
委員長	<p>先ほどの経済事情というものも含めて、一週間で1000円で食事やりくりしなければならないとか、学生などは。そういう場合は言っていられないですね。 それでは、佐藤委員に今度はお願ひしましょう。お願ひします。</p>
委員	<p>今回この資料を読ませて頂いて、私は食にすごく興味があるので、本当に読みやすく、前回と比べたらコラムとかそういった身近な話題として、ただ文章でというよりは、グラ</p>

フと文章だけというよりはすごく良かったかなと思いました。その中で、前回言っていた食事バランスガイド。59 ページに載っているんですけども、コマの形をしていて、学校給食のひとつの話とか、あとは新聞のコラムなんかでたまに目にする形なのですけども、やっぱりそういったものをいざこういうところに載っていたら、興味があったら文字よりも絵の方に目がいくので、こういったことを目で見ただけのバランスというのを意識して、自分の例えばビュッフェとか食べ放題に行った時でも、こういったちょっとしたバランスとこれ（バランスガイド）を同じ分類じゃないかと頭に入れておけば、ご飯・パン・麺類の中から一品と、他の果物とか、そういったカテゴリーが少しずつ頭に身近で入っていくような、日常の中に溶け込んでいけばいいかなと思いました。

それと、44 ページ。各分野の期待される役割ということで、市民の中の家庭の役割ですとか、保育・教育関係の役割だとか分野に分かれていて、それぞれ自分がその社会の中での役割ですとか家庭に入った時に明確なちょっとした目標として、こういうことをすればいいのかなとか、そういった感じでもっと簡潔にというのは難しいかもしれないんですけども、わかりやすく、自分たちの家庭ではこういうことをすればいいんだとか、仕事によって食品関係の仕事をしている人はこういうことを求められているんだとか、そういったちょっとした指標になるような感じにみられるので、このページをパラパラと文章がいっぱいだからと飛ばして読んでしまったらもったいないなという、すごく良い内容が書いてあるなと思いました。

それと、32 ページのところ、No.16 総合的な学習活動のところ、豆腐作りとか野菜栽培とかっていうすごく良いことが書いてあって、これが一部の学校のみとなっているので。本当に豆腐作りをやっている学校って本当に一部だと思うんです。でもその学校だとすごく良いと思いますけれども、この一部の学校のみというこの一文が消えるように取組がなされていったら。そういう施設も市内が増えてきたら、こういう体験が出来るような場所も必要だと思うので、取組が増えていって興味あるないに関わらず、子ども達とか学校生活を送る学生の人達がそういうようなことに取り組める、そういった推進事業の中での一部の取組として、各学校がそういったことを出来るようになっていけば、苦小牧の食育という興味自体が増えていって、「いただきます」や「ごちそうさま」も増えていくのかなと思いました。

そして、先ほど 17 ページのところ、コラムのところ。避けたい7つの「こ食」というところを読んでいてすごく面白いなと思いました。これはありとあらゆる「こ」というものをよくここまで集めたなって思うくらいすごく面白くて、これが例えばイラストになっていたりとかして、箸のマナーとかって検索をすると、〇〇箸はダメとかそういうお箸の使い方っていうのでイラストで載っていたりするのです。文字で入ってくるのとイラストで入ってくるのは違うので、一人で食べている絵とか。こっちは孤食は子どもだけで食べる孤食。やっぱり子ども食堂とかいろんな食育に関して子ども達向けの食育っていうのもちょこちょこいろんなところで根付いていっている中で、やっぱりこういうのは避けたいよねっていうのが絵に書いてわかったりだとか、あとはそれだけじゃなくて孤食っていう部分で、先ほど副委員長の市町さんが言っていたように、独居老人の方、特に男性の方

	<p>とか、これからも目に見えてそういった不安のある世代の人たちがそういうような悩みを持っているとか、相談出来る出来ないにかかわらず周りの人達が目を向けてあげやすい環境になるためには、こういう孤食の食育っていうのは、子ども達だけに限らずお年寄りの方にも食育って大事なのだっていう認識がまず無いと気にしてあげることができないので、そういったことも含めて、面白さのコラムの中に見やすさというか漫画みたいなので伝えたりして、気軽に入ってくる。大事なことこそこの中で、これだけは見てほしいなっていうところだけ精査して、そこを面白おかしく書いてあげたら、この何十ページもある中でそれが印象に残っていれば、これからの市の食育っていうことに関して少し意識が変わってきたらいいなって思いました。</p>
委員長	<p>手にとって見やすいものになれたらいいなと。1つ佐藤委員が今ご指摘された59ページの食事バランスガイドなのですが、これは1/2ページじゃもったいないような気がいま佐藤委員のお話を聞きながら思ったのですが、写真に書いてあるメニューのお料理の名前も非常に小さかったりするのですが、山本委員、見つらいですよ？私も見つらいです。そういうところも含めてイラストですとか写真ですとかもうちょっと。近江委員もおっしゃっていたような見やすいキャッチーなものが良いかと思います。</p>
委員	<p>これは国が作ったバランスガイドだと思うんですけども、北海道で作ったホッケとか入った北海道バージョンもある。是非それを載せて頂ければ身近になるのかなと。</p>
委員長	<p>北海道バージョンもあるのですか？初めて知りました。それも是非参考にして頂ければと思います。</p> <p>お待たせしました、斉藤委員。それではお願い致します。</p>
委員	<p>10ページの③の食の外部化、簡便化の傾向というところで、先ほどもあと佐藤委員の方から出ましたけれども、高齢者それから共働きなどで中食を使う率っていうのは上がってくるし、それを上手に使うことで食生活を豊かにすることが出来ると思うんですけども・・・。これはあくまでこういうパーセンテージでしたということで終わるんであればいいかなと思うんですけども、これが増えると困るっていうような捉え方では多分ないとは思うんですけど、ちょっとそこが気になりました。なので、逆にその中食のものを上手に使う方法を何かで伝えることが出来ることさらにいいかなと感じました。</p> <p>それから12ページの肥満の状況なのですけども、あくまでもこの食育に関するアンケート調査の対象者の割合ということでここに表示されているんですけども、抽出はアトランダムということなのでこの方法でも良いとも思いますし、または逆に市で行っている公的なものでパーセンテージを出した方がより具体的な数字というか・・・。たまたま肥満の方が多く抽出されてしまうとパーセンテージも多く出ると思いますし、なので何か健康の管理されているところの数字というのがもしあるのであれば、そういう方がより実際の数字に近いような気がしました。</p> <p>それと46ページの目標値ということで33年度評価されるということなのですが、あくまでもこれは今回と同じアンケートで評価をされるということでしょうか。</p> <p>それから、先ほど小野里委員さんの方からふりかけの話が出たのですが、食事は自分の家の食事が正しい、普通ですと皆さん答えられるのです。でもその普通は自分の家</p>

	<p>だけの普通であって、バランスのとれたその方にあった食事の内容の話を知ると、もうちょっと何がいいかな？野菜を多く摂った方がいいとか。先ほどのふりかけだと、少し塩分が上がりすぎるのではないかとかそういう指標を知らないというだけなので、例えば保育園で最初にお母さん方にここではご飯とパンを持ってきて頂くのですっていう時に、なぜそれを持ってきて頂いて、どういうものなのかということをしつかりと最初に伝えると、そうなのだなということをしつかりと理解して頂けると思います。それは全体につながるのだと思いますので、いろんな意見を皆さんからお伺いして。これは私の提案なのですけれども、この取組を広報の方でもお知らせして頂けるものと私は思っているのです。その際に広報の真ん中にランチョンマットを作るっていうのもいいかなと。とまチョップの絵を使って、先ほどの日本食のパターンが一つとあとコマの話が出たのですが、ここにどさんこのがあるのですけれども、これを何回かに分けて説明をするということで、少しでも市民の方に広く食事の興味を持っていただくものにならないかなと考えていたものですから、ここでちょっとお話させて頂きました。</p>
委員長	<p>具体的にアイデアも提案として出して頂きまして、ありがとうございます。今、ひと回りさせて頂きましたが、石井委員、思いついたことはございましたでしょうか？</p>
委員	<p>43・44・45 ページのこの3 ページはどうなのかなとずっと見ていたんです。結局これ作りますよね？どういうかたちでこの43 ページにある団体と市民向けに発信していくのかなというような、ちょっと具体的な部分が見えない。市民にこれを配る訳ではないですよ？こういうのが出来ました。そして市民が興味を持ってもらえるスタイルでどう発信していくのかなという部分が一点と。</p> <p>44 ページの語尾がちょっと……。加点には「〇〇を期待します。」で、ほかは「〇〇が期待されます」に変わっていく部分の微妙なニュアンスってどこにあるのかな？という風に非常に思っています。一番重要なのはこの課程だとは思いますが、そこに意識を高めていくための方策というのが非常に重要なので、その部分がどういう文言になるのが収まりがいいのかなというのがちょっと……。私の回答は無いのですけれども、思いました。</p> <p>最後に、45 ページの進行管理のところが見えないのかなというふうに。ここ非常に重要で、私たちの現場でもこの進行管理をどう見える化するかが非常に大きなポイントになるのです。予算の関係もあるからなかなか難しいのかも知れないのですが、33 年度までにどういう進行管理の工程表を作られているのかな？というのがちょっと見えないのかなと。同時に食育推進協議会って続くのですか？委員が変わりながら続いていくのですね。</p>
委員長	<p>先ほど、どう発信していくのですか？というあたりも今の段階で回答頂いた方がよろしいですよ？または、今後の計画の中でお話頂けるかと思っておりますので、その時には伺いたしたいと思います。</p> <p>他に皆様いかがでしょうか？どうぞ近江委員。</p>
委員	<p>ダイジェスト版の作成は検討されているのかな？と。A4 版でもいいから広報とか、せっかく作ったなら作ったっていう、わかりやすく、佐藤委員がおっしゃったみたいに、作</p>

	<p>ったよというような。やっぱり周知しないと市民も計画について来られないのかなと。出来ること、予算の関係もあると思いますので。ちょっと差込みたいな感じでいいのかなと。さっき佐藤委員が言われた、わかりやすいというか。厚生労働省のやつなのですけども、こういうイラストみたいなので、こういう風にして苦小牧なら5つくらい目標を書いてあげれば、パッとすぐ見て視覚で捉えると、こういうことやったらいいのだなという風に認識してもらえるとというのがあるので。どうしても5年計画だと、先ほど石井委員もおっしゃっていましたが、1年に1回は自分達も忘れてしまうので、5年計画だと。毎年こういうチラシみたいなのを定例で、安い予算で出来る範囲内で4月とか5月とかそういう時に、今年目標はこれだよみたいに広報に入れるという決め事をつくっておくと、5年間継続してやれるのかなという気もします。</p>
委員長	<p>例えば45ページの進行管理とも関連してくるのかもわかりませんが、5年間のうちで忘れないように広報をきちんとしていく。それが見やすいダイジェスト版というようなご提案を。</p>
委員	<p>このバランスガイドの上で運動している人が回っているんですけど、旭川版は旭山動物園のペンギンが走っているのです。北海道はノルディックウォーキングを推奨しているので、ノルディックウォーキング。厚生労働省は、これを自由に使ってくださいということなので、ここをとまチョップが走ればいいのか。そうするとまた、食事バランスガイドも「とまチョップが走ってるわ」とか「なんか親しみやすいのかな」とかそんな感じはあるかなとは思っています。出来なくはないことなのかなとは思っています。そういう工夫もありますのでお伝えさせていただきます。</p>
委員長	<p>私の方からも何点か、内容というよりも全体のことでご質問及び確認ということでさせていただきます。まず、最初のページ、1ページをめくって、1.本計画の趣旨・目的に食育の定義とあります。数字と文字の間に(・)が入っているのですが、これはどうして(・)が入っているのか。これは苦小牧市の決まりなのでしょうか？他の所も全部そうになっているのですが、なんか変だなと思ったので。</p>
事務局	<p>それは決まりではないので、直したいと思います。</p>
委員長	<p>あと全体のところで、図表の説明の時に、例えば11ページの頭の図表9.10というとき。通常、〇〇の状況です(図表9、10)。という風に文章は通常書かれていると私は認識しているのですが、これも苦小牧市の決まりなのか？</p>
事務局	<p>これも苦小牧市のオリジナルでもなんでもないので、統一して直します。</p>
委員長	<p>全体を読ませて頂いている中で、不必要に「〇〇という」という非常にあまり綺麗じゃない表現がありますので、そういったところをシンプルにして頂きたいなど。それから、図表からの、はっきりと断定的に数字が大きく違っていることがわかっているにもかかわらず、「〇〇という傾向がある」という表現が何ページにもありまして、傾向があるのではなくて、明らかな場合。例えば17ページの《成人・単独世帯以外の世帯》の朝食、夕食のことについて書いてあるのですが、3行目に、「共食の状況が高い傾向にあります」と。傾向ではなくて完全に高いので、「状況が高いです」という、もうちょっと表現を考</p>

	<p>えて頂きたいなというふうに思いました。あと、全体の中の、長文なので主語と述語が乱れているところも気が付いたところもありましたので、個別にお伝えして、そういったところを直して頂きたいなというふうに思います。それから、むし歯のところがあったと思うんですが、13 ページの子どものむし歯、他の年代別のところにも同じ間違いがあったんですけれども。むし歯の《幼児》というところの、「むし歯有病率は1歳6か月児で3.1%、3歳児になると22.3%であり、年齢とともにむし歯有病者率は増加する傾向です。」という。これは1歳6か月のお子さんが1年半後になるとむし歯が増えるというふうに読めてしまう内容ですので、これはそういう調査ではなくて、1歳半は1歳半、3歳は3歳というふうにとった結果というふうに聞いておりますので、「3歳になると」ではなくて「3歳児は」とか「3歳児では」とか。そういったいくつかデータから見えたものと説明している部分が違っているところが何箇所か見えたり、何と比べて何がどのくらいかとか、何と比べてというのが抜けていたりとか。そういったところで、私も見ている中でかなり気が付いたところがありました。これだけまとめてくださってここまで仕上げてくださいましたからこそ、きめ細かく見ると気づくところがあるので、私たち委員ももう一回くらい丁寧に見させて頂いて、もし気が付いたところを改めてお伝えする機会があったらいいのかなというように思いも、私個人はしておりますが、皆様はいかがでしょう？というところでございます。</p> <p>これで質問とかご提案は終了ということによろしいでしょうか？これ以外に気づいたところがあったら、個別にお申し出頂きたいと思っております。議事にその他というところがございますので、その他についてご説明して頂きたいと思っております。</p>
事務局	<p>沢山のご意見ありがとうございました。全て書き留めましたので、これを反映出来るように努力したいと思います。多少十分に反映出来ない部分もあるとは思いますが、きちっとしたものが出来ましたら、皆様に資料としてお配りしたいと思いますのでよろしくお願い致します。</p> <p>今後のスケジュールと致しまして、このご意見を踏まえて計画修正した後、6月には市民からの意見の募集（パブリックコメント）を行いたいと考えております。その後また市民の皆様からの意見を反映致しまして、最終的な素案を完成させたいと思ひまして、第4回食育推進協議会を8月に開きたいと考えております。日程としては8月8日（火）を予定しておりますので、また近くなりましたらご連絡したいと思います。その他、今お話はなかったんですけれども、後で気づいたというところがあれば、是非ともお電話・メール・FAX 何でも結構ですでお寄せ頂きたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い致します。</p>

3 その他 次回第4回協議会の開催は8月8日（火）予定

4 閉会